

手すりの素材をそろえて内外のつながり感を

3階階段室。階段と屋外バルコニーの手すりはそれぞれ、直径27.2mmの鋼管をOPで仕上げた同じ仕様。ガラス越しに見せることで、内外のつながりを感じさせるようにした

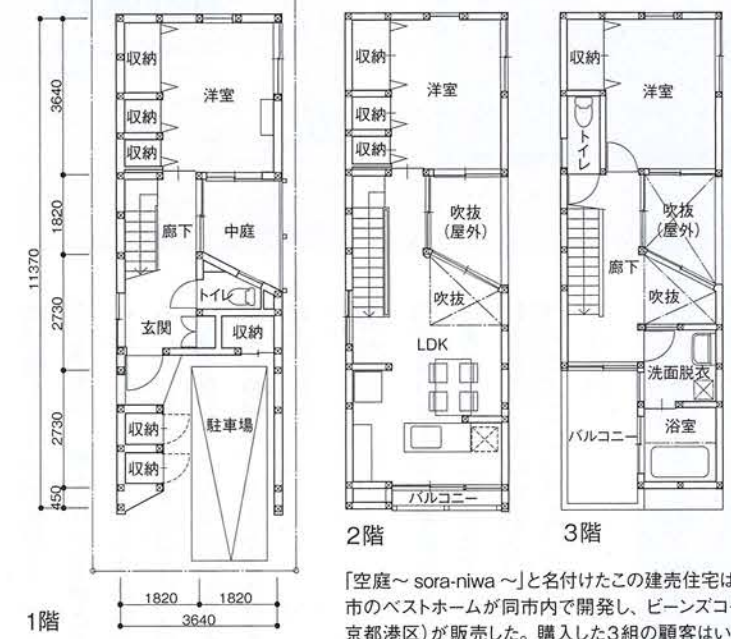


色と素材を使い分けて外観をシャープに見せる

外観正面。低層部の門形部分と3階部分はモルタルの上に弾性アクリルリシン吹き付け、バルコニー壁は準耐火仕様に加工したレッドシダーとし、部位ごとに色と素材を使い分けた。細長い箱形建物の外枠を白くシャープに浮かび上がらせることで、建物の構成を明快に表現しているのがデザインのミソ



●平面図



「空庭～sora-niwa～」と名付けたこの建売住宅は、横浜市のベストホームが同市内で開発し、ビーンズコープ(東京都港区)が販売した。購入した3組の顧客はいずれも、建築や設計関連の仕事に携わる人ばかりだったという

引き立たせる効果も

見た目の構成要素を整理することは、強調したい部分をより引き立たせる効果も期待できる。  
右は、この住宅の外観。2階部分でバルコニー付近の外壁には、バルコニーの手すりと同合わせて、木質サイディングを張っている。  
外壁材とは異なる素材を張っているのに、ゴテゴテした印象を受けない。建物の白い輪郭がくっきりと浮かび上がるように見えるので、むしろ外観全体が引き締まって見える効果を発揮している。

うちの決めワザはここ！

ポイント  
「線」と「隅」にあり

ちょっととした目配りが一味違う仕上がりを生む——。デザインに力を入れる住宅会社を訪ねて、設計・施工で手掛けた事例を題材に勘所を聞いた。図面に出ない施工者ならではの「決めワザ」もある。

創建舎の中里さんは、「隅々」の納まりや仕上がりが、デザインの良しあしを決める」と語る。上の室内では、開口部と仕切り壁の取り合いや、部屋を隔てた開口部同士の高さなどがポイント

このページの写真は、創建舎(東京都大田区)が手掛けた例だ。上の写真で、向かって右手の開口部に注目してほしい。開口部と仕切り壁の取り合い付近で、入り隅に窓枠がほぼ重なって見える。こうした場合に一般には、施工のしやすさなどを考慮して、仕切り壁の端部と開口部との間に若干のスペースで壁を設ける例が少なくない。しかし写真のように、あ

えて仕切り壁の端部に窓枠を突き付けるように納めると、視野に入る「縦線」が減るのでよりすっきり見える。  
他方、この開口部の上枠は、62ページで紹介した岡村さんの例と同様に、天井面にそろえている。さらに、この上枠を「横線」に見立てて左手方向に伸ばすと、隣室に3カ所ある開口部の上枠と一直線にそろう。「横線」は、隣室で



玄関の上がり框の例、このように木材の端部をできるだけ薄く見えるように納めると、軽快な印象になる



階段に幅木を設ける際、踏み板の側面だけでは、端部の木口が見えてしまう。蹴上の側面にも設けたほうが、よりきれいに見える (写真:3点とも創建舎)